

2026
春号

富山
大学

富山大学ニュースレター spring.2026. vol.14

News Letter

富山大学HP

X (旧Twitter)

YouTube

Instagram



Contents

P.1 原子力をキーワードに、幅広い分野で議論できる社会人へ
P.4 研究紹介

P.5 富大ニュース
P.8 富山大学基金へのご寄附のお願い

Close-up

クローズアップ特集

原子力をキーワードに、

幅広い分野で議論できる 社会人へ

地震、津波、火山等に関わる自然災害に対する
原子力リスクアセスメントに資する
人材育成プログラム

原子力の安全評価について学ぶ学生は少なくなってきました。
一方、それに関連する幅広い知識は、防災などの多くの分野で
求められており、習得すれば将来の活躍の場が広がります。
そこで今回の特集では、
原子力規制庁による原子力規制人材育成事業の採択を受けた、
都市デザイン学部の人材育成プログラムをクローズアップ。
プログラムの内容や目的などについて、
安江健一准教授にお話をうかがいました。



3つの学科を横断して、さまざまな分野の知識を

なぜ、原子力規制人材育成事業に応募を？

原子力は社会を支える重要なエネルギーですが、安全な発電所の管理や放射性廃棄物の処分といった安全評価の課題を抱えています。安全評価に必要な多角的な知見は、防災やインフラ整備等の分野でも強く求められています。そのため、この知識を都市デザイン学部の3学科の専門性に加えれば、社会での活躍の場はより広がります。本学部には、3学科共通の科目が既にあります。『原子力』というテーマで3学科をつなげて、それぞれの学びをより深め・広げて欲しいと考えました。また、社会に出た後、自分の専門性を持ちながら異なる分野でも議論できる「T型人間」の育成に貢献したいという思いもありました。



都市デザイン学部 准教授 安江 健一

今回採択された事業は？

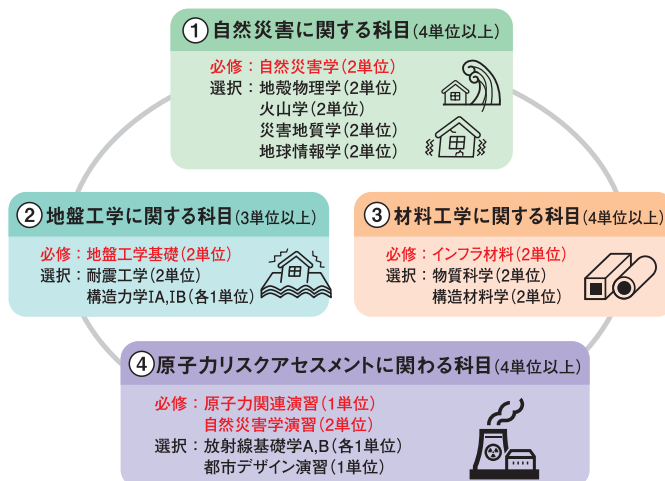
今回、採択された事業は原子力規制人材育成事業です。「地震、津波、火山等に関わる自然災害に対する原子力リスクアセスメントに資する人材育成プログラム」という事業名で、令和6年度から実施準備を進めてきました。都市デザイン学部には所属する2年生から履修できます。

プログラムで、どんなことを学べるの？

例えば、原子力発電所の近くで自然災害が起きると、その発電所が影響を受けますよね。そこで、まずは特定の**自然災害事例の発生状況やメカニズム**などを学びます。同時に、**地盤に関する基礎知識や構造物の設計、材料の強度**などについて学びます。さらに、**原子力や放射線に関する基礎知識**を身につけ、多様な**フィールドワーク**を実践します。このように受講生の視野を徐々に広げ理解を深めていきます。

学生が受講する科目は、原子力規制に役立つと思われる科目で構成されています。その多くは既存の科目ですが、『**原子力関連演習**』と『**自然災害学演習**』は新しい科目です。また、理学部にもご協力いただいて『**放射線基礎学AおよびB**』も受講できるようになっています。

●自然災害、地盤工学、材料工学、原子力・放射線に関連する17科目から15単位以上を修得



都市デザイン学部

地球システム科学科

都市・交通デザイン学科

材料デザイン工学科



能登半島地震で隆起した海岸の調査



立山カルデラの見学

フィールドワークでは、どんなことを？

「本物を見る」ことを実践しています。例えば、断層は大地の傷であり、それが縦や横にずれることで地震が発生します。その断層の上に原子力発電所を建てるわけにはいきません。実際の断層は、教科書のように分かりやすいものではありません。本物を見ることで、**研究に必要な視点や十分な観察の必要性**を伝えています。

また、道を歩いていると、単なる段差や田んぼのあぜ道に見えても、地下に断層がある場合もあります。授

身につけられます。

業では、断層を掘削している現場を見学したり、断層の有無や地下の様子を探索したりしています。

これまでは、能登半島、岐阜の阿寺断層、立山カルデラ、北陸電力 志賀原子力発電所、原子力研究開発機構 東濃地科学センターなどを見学してきました。2026年3月には、東京電力 福島第一原子力発電所の敷地内に入り、実際に事故が起きた場所などを見学しました。



東京電力 福島第一原子力発電所の見学(出典:東京電力ホールディングス)

今、このプログラムを学ぶことの重要性

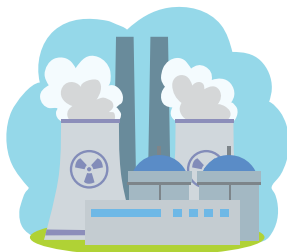
社会に出て実際に働くと、自分の学んできた分野だけでは対応が難しい課題が多いことに気づくと思います。T型人間の育成に力を入れているのは、なるべくその難しさをなくすためです。私は、大学卒業後、社会人として研究所で働いていましたが、他分野の方々と議論する際に文化や用語の違いなどに大変苦労をしました。こうした自身の経験からも、**学生のうちに自分の専門分野以外の分野についても知っておくことが重要だ**と思っています。

エネルギーは現代社会に不可欠ですが、これからはAIの発展に伴い、ますますエネルギーが必要になっていきます。ですので、エネルギーの分野について学ぶことにも価値があるのではないのでしょうか。



将来、どんな分野で活躍できる？

この事業は、原子力規制を担う人材の育成を目的としていますが、**原子力全般に関連する業界で貢献できる人材**になってもらえたらと思っています。さらに、ここで得た知識や経験はあらゆる分野の問題解決に生かせると思います。



これから取り組みたいことは？

全国各地には、**原子力発電所やそれに関連する研究所**などの施設が数多くあります。これからは、学生がそういうところを見学する機会を作っていきたいですね。異なった分野の複数の年代の学生が集まれば、情報も豊富に集まるため、**先輩と後輩が原子力のことについて交流する機会**も作っていきたいです。

また、学生の皆さんには、原子力発電所から発生する放射性廃棄物の処分にも目を向けてもらいたいですね。世代を超えて取り組むためにも、学生のうちから知っておいてもらえたらと思っています。

フィールドワーク(演習)に参加した学生の声

専門分野を追究していくだけでなく、原子力と地層などを結びつけて学びを深めていきたい。



将来的にどのようなキャリアを築きたいのかを具体的に考えるきっかけとなった。

実際に自分の目で見て初めて公平な視点を得られることを学んだ。

災害につよい建物・材料について興味を持った。

原子力発電所に学科の学びを生かせる場が多く存在することを知れた。断層や岩石薄片の重要性がかなり大きかったことが意外だった。



研究への意欲が湧いた。

世界最小電圧の 乾電池1本で発光する有機ELを開発

学術研究部 工学系 教授 森本 勝大

プラスチックなどの有機材料に電圧をかけて電気を光に変える「有機EL」は、大型テレビやスマートフォンのディスプレイなどに使われています。有機ELの専門家である森本勝大教授らによる研究グループでは、2022・2023年に世界最小電圧の乾電池1本で発光する赤色・青色有機ELの開発に成功しました。いずれもスマートフォンのディスプレイ並みの明るさに発光しますが、特に光の三原色の中で最もエネルギーの大きな青色の発光を得ることは大変困難とされています。その研究内容について、森本教授にお話をうかがいました。

● 有機ELの原理を教えてください

有機ELの原理は、皆さんの身近にあるLEDと基本的に同じです。どちらもプラスの電気とマイナスの電気がくっついて手を取り合った時に生まれるエネルギーを光に変換するものです。LEDとの違いは材料で、有機ELには有機材料、LEDにはセラミックや陶器などの無機材料が使われています。

● なぜ、低い電圧で光らせることに？

今、有機ELは、より明るい光を求めて競争が激化していますが、電圧を抑える動きはあまりありません。今回の目的は、**低い電圧で光らせること**でした。研究では、柔らかくて薄くて軽量といった特徴を持つ有機材料を使用し、先に述べたメカニズムを抜本的に変更。通常はプラスの分子とマイナスの分子が1つの材料の中で混ざり合い、手を取り合って光りますが、あえてその2種類の分子が混ざらないように分けながらも、握手ができるようにしました。プラスの分子はプラスだけを運び、マイナスの分子はマイナスだけを運ぶというふうに、それぞれの分子が自らの専門性を発揮できるようにしたことで、低い電圧での発光につなげることができました。

実は乾電池よりも低い電圧から光り始めている点も特徴です。赤色に発光する場合は2ボルトの電圧が必要で、青色の場合は2.7ボルトほど必要ですが、発光開始時は赤色の場合は0.8ボルト、青色の場合は1.2ボルトからスタートしました。

● 2種類の分子には、どんな特徴がありますか？

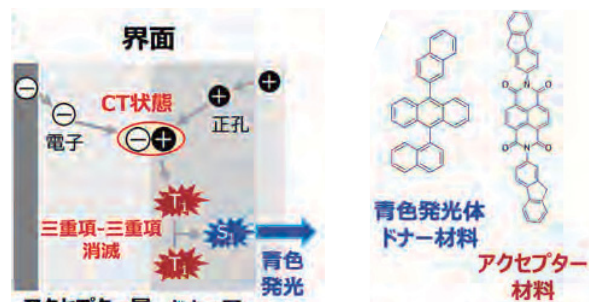
相性が良いものを組み合わせました。そうでないと握手をしません。マイナスの電気を運ぶ分子にはヒゲが生えていますが、そのヒゲの長さや分子同士の距離、そして握手する時の力の強さを相性と捉えています。実際にヒゲの長さが異なる3種類の分子を比較したところ、中くらいの長さの分子を使用した時が最もよく光りました。さらに、シミュレーションでも、中くらいの長さの分子が、プラスの分子に最も近づき、程よい力で握手をすることがわかりました。

青色は、赤色よりエネルギーが大きい分、分子が壊れやすいため、研究にはより多くの時間を要しましたが、研究内容の基本的な部分は赤色と同じです。

● 今後の活用方法を教えてください

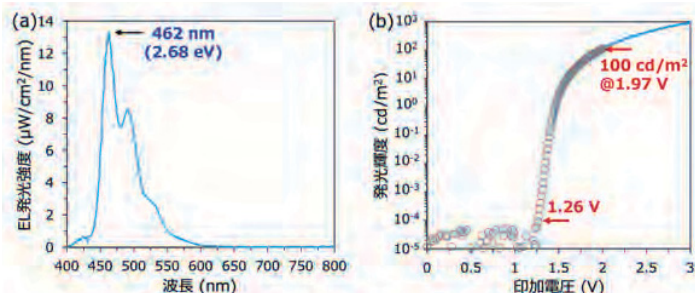
今、よく言われている再生可能エネルギーは、工場や家庭の電力を賄おうとしているため、100ボルトの電圧が必要になります。その大きな電気は感電すると死に至るレベルですが、**電圧が低ければ感電だけでなく、火事や発火などのリスクを抑えることができます。**

また、次世代太陽電池や環境発電などの組み合わせによって、乾電池というバッテリーのない状態を生み出すことができれば、産業廃棄物の問題にも一役買うことができます。これからは、**人間や環境などに優しい小さなエネルギーで発光できるものをうまく使えるデバイスに応用していきたい**ですね。



界面を使った独自の発光原理

青色発光体ドナー分子(アントラセン誘導体)、アクセプター分子(ナフタレンジミド誘導体)の構造



開発した青色有機ELの(a)発光スペクトル(b)輝度-電圧特性





TOMIDAI NEWS

人文社会芸術総合研究科、分野を越えた研究発表会を開催

2026年2月4日(水)、五福キャンパス学生会館金森産業ホールにて、本学大学院人文社会芸術総合研究科の研究発表会が開催されました。本研究科は、心理学、人文・芸術、共創経済の三つのプログラムから構成されており、発表会は、研究科として初めてこれらのプログラムが一堂に会し、研究成果を共有する機会となりました。

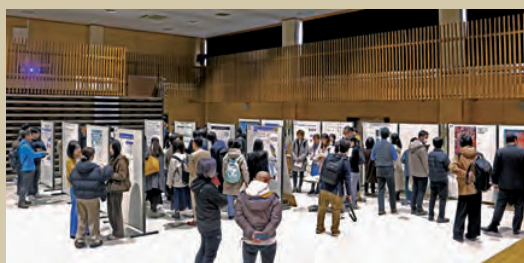
発表会はフラッシュトークおよびポスター発表の形式で行われ、今春に修了予定の大学院生を中心に、26名が研究成果を発表しました。会場は、ポスターに加えて、絵画作品や工芸の素材や道具、そして研究に使った資料なども展示され、人文社会芸術総合研究科らしい華やかな会場となりました。

当日は鳥海清司理事の挨拶からはじまり、齋藤滋学長からもメッセージが寄せられました。学長は、「専門分野の枠を越えた融合的な学びの重要性に触れ、広い視野をもって研究に取り組むことが、複雑な社会課題の解決につながる」との期待を寄せられました。

続いて、3つのグループに分かれてのポスターセッションでは、大学院生、学部学生、教職員などあわせて137名が参加し、活発な質疑応答や意見交換が行われました。ポスターや作品を前に行われるポスターセッションには多くの人が集まって説明に聞き入っていたり、熱心な学部学生たちから質問が飛び出すなど、会場は終始、賑やかでした。

発表者からは、「初めてのポスターセッションに緊張したが、参加してよかった」という声が多くきかれました。専門外の人でも自分の研究に興味をもってもらえたことや、他の研究領域の発表を聴いて新たな知見を得ることができたことに、自信を得たようにみえました。また、来場者からは、「発表者との距離が近く質問がしやすかった」と、発表者の柔軟な対応力を高く評価する声や、自分も持っている関心が、心理学や芸術、経済学と繋がっていると感じて、大学院への興味が高まった学部学生もみられました。

最後に、鳥添貴美子研究科長が、この発表会が、参加した人たちの交流の場となり、互いの研究についての理解を深める機会となったことに触れ、今後もこうした取り組みを大切にしていきたいと述べました。



富山大学附属病院消化器・腫瘍・総合外科／膵臓・胆道センターがクラウドファンディングに挑戦しました！



膵がん治療の進化と、若手外科医の育成の両立を実現させるため、富山大学附属病院 消化器・腫瘍・総合外科／膵臓・胆道センターが、クラウドファンディングに挑戦！

皆様のお力添えで寄附総額が21,884,000円となり、第2目標の20,000,000円を達成できました！

頂いたご寄附は、若手外科医のための研究活動支援費用・膵がん研究の実験費用・臨床研究に関する人的支援費用等に活用いたします。

ネーミングライツ事業「富大もちつき大会」開催

2026年1月15日に、金森産業ホールで、ネーミングライツ事業「富大もちつき大会」が開催されました。

富山大学の学生や教職員だけでなく、子供も含めた地域住民の方も集まり、約200名が参加しました。留学生や外国人数員の参加も多数あり、本企画のテーマである「国境、年齢、場を超えてつながる」を見事に達成した形となりました。

「よいしょ」の掛け声とともに、多くの参加者の手でつくられた餅は、あんこで包んだり、きな粉にまぶしたりした後に参加者に振舞われました。

「みんなの気持ちがいっているみたいでおいしい」「小さい子供から大人までたくさん人がいて、楽しくもちつきができた」など、心もお腹も満足できるひと時となりました。



齋藤滋富山大学長インド及びタイ歴訪



富山大学一行は、学術交流協定及び学生交流に関する覚書の締結、研究者・学生交流の促進、国際共同研究強化及び国際シンポジウム出席を目的に、11月12日から18日の間、インド及びタイの教育研究機関である

スリ・ラマサミー・メモリアル大学

インド工科大学マドラス校

キングモンクット工科大学ノースバンコク校

カセサート大学

を訪問しました。

本学は、学長のリーダーシップの下で、グローバル化を強力に推進しています。今回のインド及びタイの歴訪によって、協定校の拡充、学生交流、共同研究等の実りある意見交換が行われました。

これを機にインド及びタイを中心としたグローバルサウス諸国との連携が加速することが期待されます。

令和7年度 「学生と学長との対話－学生交流会－」を開催



11月27日、令和7年度学生と学長との対話－学生交流会－を五福キャンパスで開催し、学生24名と学長や理事ら教員6名が参加しました。

今年度は、グループに分かれて、『ワクワク感を後押しする教育とは?』という視点で、4つのテーマについて、グループディスカッションや発表を行いました。

参加した学生から、「座学だけでなく、フィールドワーク等の体験型授業を組み合わせることで地域の魅力を実感できる」、「授業で自分の考えを発信する場がもっとあるとよい」等の意見があり、学長からは英語教育の重要性に加え、「授業だけでなく学生生活を能動的に過ごして欲しい」とのメッセージが伝えられました。

学生からは、「学長に直接提案する機会は大変貴重で有意義な時間となった」、「学部毎に違いがある中で、1つの課題について話せたので面白かった」といった感想があり、大学教育の在り方について、学生と大学が共に未来を描く貴重な場となりました。

国立大学法人富山大学統合20周年記念式典、記念シンポジウム及び懇親会を举行

シンポジウムが開催され、関係機関、卒業生、在学生、教職員約300名が本学20周年の節目を祝いました。

記念式典では、齋藤滋学長が挨拶し、地域と世界に開かれた大学としてさらなる発展を目指す決意を述べました。

引き続き開催された記念シンポジウムのパネルディスカッションPart 1では、新田富山県知事、林勇二郎富山大学経営協議会委員・金沢大学名誉教授、中尾氏、遠藤俊郎富山大学前学長、齋藤学長の5名が登壇し、「富山大学の今」をテーマに、本学の統合から現在までの取り組み及び未来への展望について意見交換が行われました。

続くパネルディスカッションPart 2では、本学卒業生4名と、現役学生を加えた5名が登壇し、「富山大学のNEXT 20年に向けて」をテーマに、富山大学での経験と今後さらに魅力ある大学となるための提言を自由な発想で語り合いました。

式典後、キャンパス内で開催された懇親会では、和やかな雰囲気の中交流を深めました。



「海上豪雨生成で実現する集中豪雨被害から解放される未来」プロジェクト実証実験 「人工降雪に係る予備実験」の実施

千葉大学国際高等研究基幹／環境リモートセンシング研究センターの小槻峻司教授、富山大学学術研究部都市デザイン学系 安永数明教授、濱田篤准教授、富山県立大学工学部 吉見和紘講師らによる共同研究チームは、内閣府によるムーンショット型研究開発制度の目標 8「2050年までに、激甚化しつつある台風や豪雨を制御し極端風水害の脅威から解放された安全安心な社会を実現」のプロジェクトの一環として、「人工降雪に係る予備実験」を、2026年1月に富山湾上および入善町にて実施いたしました。将来、人為的に海上で雲を発生させる



ことで、豪雨被害の抑制や人工降雨・降雪への応用が期待されます。



祝

受賞者紹介

International Conference of Asia-Pacific Planning Societies
2025 YUPN Best Paper Presentation Awards

2025年8月20日～22日

2024年度
人文社会芸術総合研究科 修了

森 豪大

学術研究部芸術化学系 講師
藪谷 祐介



第13回韓日中生薬学会合同シンポジウム
優秀口頭発表賞

2025年11月7日

医学薬学教育部博士後期課程3年生
Saw Yu Yu Hnin



第41回素材産業技術賞
中小企業庁長官賞

2025年11月7日

学術研究部工学系
教授
白鳥 智美



第37回全日本医科学生
アーチェリー競技大会
個人総合 優勝

2025年8月4日～7日

医学部医学科5年
稲田 伯



令和7年度中部地方発明表彰中部経済産業局長賞
第63回富山県発明とくふう展
特許庁長官奨励賞

2025年11月12日

附属病院 病理部 臨床検査技師長
田近洋介ら研究グループ
三晶MEC株式会社



第53回構造活性相関シンポジウム

2025年9月4日～5日

優秀発表賞
医薬理工学環(博士前期課程)
創薬・製剤工学プログラム2年生
笠松 直人



2025年度水産海洋学会研究発表大会
若手優秀講演賞

2025年10月31日～11月2日

持続可能社会創成学環
グローバルSDGsプログラム
修士課程2年次生
三神 崇重



日本認知・行動療法学会第51回大会
最優秀研究報告賞

2025年8月22日～24日

学術研究部 人文科学系
講師
重松 潤



全映協グランプリ2025学生部門最優秀賞(文部科学大臣賞)
グッドデザイン・ニューホープ賞
富映協映像コンテスト2025学生部門 優秀賞

2025年12月22日

理工学研究科都市・
交通デザイン学プログラム博士
前期課程2年生
中江勇貴、藤井理央、松尾蒼平



※他の受賞者情報はホームページをご覧ください。 <https://www.u-toyama.ac.jp/news-education/>

富山大学基金へのご寄附のお願い

富山大学基金は平成24年に本学の理念・目標である「高い使命感と創造力のある人材育成、地域と世界に向けて先端的研究情報の発信、地域と国際社会への貢献を推進するため本学の学生修学、教育研究等に係る各種事業を支援すること」を目的に設立されました。今後も本基金の趣旨にご理解を賜り、格別のご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

基金の種類

一般基金

本学が行う学生修学・教育研究等に係る各種事業の一層の充実を図ります。

リサイクル募金

読み終えた本・DVD・ブランド品等の査定換金額が寄贈される取組です。

特定基金

各部局等が実施する用途を特定した事業への支援に役立てられます。

- 修学支援基金
- 課外活動支援基金
- 医学部基金
- 芸術文化学部基金
- 研究等支援基金
- 経済学部基金
- 工学部基金

基金事業



留学体験記

学部1年次対象 短期海外英語研修

留学先 | オークランド大学(ニュージーランド)

人文学部 人文学科 2年 川田 真央

この度は、富山大学基金の短期海外派遣プログラム支援事業に参加させていただき、ありがとうございました。私はオークランド大学内にあるELAという語学学校で約5週間英語の授業を受けました。授業ではグループワークやディスカッションの機会が多く、クラスメイトと積極的に交流しながら、楽しんで英語を学ぶことができました。

ニュージーランドでの生活で特に印象に残ったのは、現地の人々の親切さと礼儀正しさです。例えば、バスを

降りる際には乗客全員が運転手に“Thank you!”と声をかけており、その光景に心が温くなりました。

今回の研修を通じて多様な価値観に触れることができ、自分の視野を大きく広げることができました。この貴重な経験を活かし、今後も積極的に英語学習に取り組んでいきたいと思います。



記念撮影



ご寄附のお申し込み、お問い合わせは
富山大学広報・基金室にお願いいたします。

問合せ先：富山大学 総務部 総務課 広報・基金室

TEL: 076-445-6178 E-mail: kikin@adm.u-toyama.ac.jp

URL: <https://tomidaikikin.adm.u-toyama.ac.jp/>



読者アンケートのお願い

「富山大学ニュースレター」のより充実した誌面づくりのため、皆様のご意見・ご要望をぜひお聞かせください。

発行／国立大学法人 富山大学

編集／富山大学広報委員会

問合せ先／〒930-8555 富山市五福3190番地

TEL: 076-445-6028 FAX: 076-445-6063

E-mail: kouhou@u-toyama.ac.jp